

2020年度 明治大学【農学部】

農学科・農芸化学科・生命科学科

国語・数学・理科のうち2科目選択

【解答時間】120分



【配点】1科目 120点 計 240点

そ

国語, 数学, 理科(化学, 生物)問題

はじめに, これを読みなさい。

1. これは, 国語, 数学, 化学, 生物の4科目の問題を綴じた冊子である。必要な科目を選択して解答しなさい。食料環境政策学科受験者は「国語」が必須である。
2. 問題は, 数学, 化学, 生物については表面から71ページ, 国語については裏面から16ページある。ただし, ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
3. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか, 受験票と照合して確認すること。
4. 監督者の指示にしたがい, 解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
5. 監督者の指示にしたがい, 解答用紙にある「解答科目マーク欄」に1つマークし, 「解答科目名」記入欄に解答する科目名を記入しなさい。なお, マークしていない場合, または複数の科目にマークした場合は0点となる。
6. 解答は, すべて解答用紙の所定欄にマークするか, または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。解答番号は各科目の最初に示してある。
7. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
8. 解答は, 必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入のこと。
9. 訂正する場合は, 消しゴムできれいに消し, 消しくずを残さないこと。
10. 解答用紙は, 絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
11. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず, 必ず提出すること。
12. この問題冊子は必ず持ち帰ること。
13. マーク記入例

良い例	悪い例
	

国 語 問 題

はじめに裏返して表紙の注意事項を必ず読みなさい。

1. この問題は16ページあります。
2. 解答番号は1～18, 101～109です。
3. 数学・化学・生物は裏面から順にあります。

(解答番号は1～18、101～109。記述式の解答は、解答用紙に横書きで記入すること。)

〔Ⅰ〕

次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。解答番号は

101

}

104

- 1 世間のジモクを集める。
- 2 カンゼン懲悪の筋書き。
- 3 貸し借りをソウサイする。
- 4 祖先の霊をトムラう。

〔Ⅱ〕

次の傍線部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。解答番号は

105

}

108

- 1 恩恵を施す。
- 2 本源に遡って考える。
- 3 義理人情が廢れる。
- 4 友人の死を悼む。

〔Ⅲ〕

次の文章は、二〇世紀前半に活躍した哲学者、西田幾多郎（一八七〇年～一九四五年）が行った二つの講演について論じたものである。この文章を読んで、後の問に答えなさい。

「学問的方法」と題された講演（一九三七年）のなかで西田は、「今の日本はもはや世界歴史の舞台から孤立した日本ではない。我々は世界歴史の舞台に立つて居るのである。我々の現在は世界歴史的現在であるのである」と述べている。「世界歴史の舞台に立つて居る」というのは、いまや、いかなる国家も他の国家との密接な関わりの中でのみ存在しうるし、そのような時代を共有しているということであろう。西田が、他を排斥し、日本精神の唯一性を宣揚し、日本文化の特殊性と優秀性だけを誇張しようとする偏狭なナショナリズムに対して明確な反対を表明したのは、このような歴史認識ないし現実認識をもっていたからである。

また京都大学での講演「日本文化の問題」（一九三八年）では、「今日では世界が（ア） 的となった。（イ） 的概念的でなく世界がレアルになった」というように「レアル(Real)」、つまり現実的という言葉を用いて、「世界」が、そしてさらに言えば「世界歴史」という「舞台」が現実的な意味をもつようになったことを主張している。

そのような状況のなかで求められるのは、自らの特殊性のなかに閉じこもることではなく、むしろ世界に向かって自己を開き、世界の文化の発展に対して寄与を行うことであるというのが西田の確信であった。そのことを西田はこの講演において、次のように言い表している。「日本は世界に於て、 只^{ただ}特殊性・日本的なもの^の尊重^{だけ}ではいけない、そこには真の文化はない。……つまり自家用の文化ではいけない。自ら¹世界的な文化を造り出さねばならぬ。之^は最も緊要な事と思ふ^ふ」。

「自家用」という言葉が用いられているが、要するに、ただ内に向かつて「日本的」であることを誇るような文化は、「真の文化」とは言えないというのである。そうではなく、もし仮に「日本精神」について語るにしても、それは「世界的」な意味をもつたものとしてでなければならぬというのが、西田の確信であった。²そのような仕方^で語る^{ので}なければ、それについて語る意味がないという議論がここでもなされている。

それでは「日本精神」が「世界的」になるためには何が求められるのか、そのことがまさに西田が講演「学問的方法」において語るうとした事柄であったと言つてよい。その点について西田は次のように記している。

日本精神が何処までも空間的となる、世界的空間的となると云ふことは、如何なることであるか。それは何処までも学問的となることではなければならない、理性的となることではなければならない。それは何処までも感情によつて理性を排斥するものであつてはならない、独断的であつてはならない。それは厳密なる学問的方法によつて概念的に構成せられることではなければならない。理論を有つと云ふことではなければならない。学問的方法といふのは時間的な自己を空間的な鏡に映して見ることである(死して後生きることである)。そこには何処までも自己批評がなければならぬ。

西田は日本の精神的な伝統の最大の「弱点」を、それが「学問」として発展しなかつた点に、言いかえれば、厳密な学問的方法の基礎の上に構築された理論として展開されなかつた点に見ている。そのような観点から西田は、日本の精神的な伝統に対して、それ自身を「空間的な鏡」に映し出すこと、つまり、異質な文化との対決ないし対話を通してそれ自身の不十分性を明らかにすること(自己批評)を求めている。

それは、³日本文化の特殊性や優秀性を一方的に主張することとは対極にある態度であつたと言つてよいであろう。精神を問題にするのであれば、伝統のなかに遺物として見いだされる精神ではなく、「生きて働く精神」を問題にしなければならないというのが、この「学問的方法」において西田が語ろうとしたことであつた。

先に「自家用の文化」ではなく、「世界的な文化を造り出すことが「最も緊要な事」であるという西田の言葉を引用したが、この⁴世界的文化の創造ということも、いま述べた課題と密接に結びついたものとして理解されていたと言える。日本の文化的伝統に客観的な基礎が付与され、それが学問として形成されるならば、特殊が単なる特殊にとどまるのではなく、一般の中の特殊という理解が得られる。その結果として、特殊同士のあいだに相互排除的な関係ではなく、互いが互いに影響を与えあうような関係⁵

が生まれると西田は考えていたのである。別の言い方をすれば、そこに、相互に開かれた場が必ず生まれると西田は考えていたと言える。

講演「学問的方法」における次の言葉もそれを示している。「我々は深く西洋文化の根柢こんていに入り十分に之を把握すると共に、更に深く東洋文化の根柢に入り、その奥底に西洋文化と異なつた方向を把握することによつて、人類文化そのものの広く深い本質を明らかにすることができると思ふのである。それは西洋文化によつて東洋文化を否定することでもなく、東洋文化によつて西洋文化を否定することでもない。又その何れか一の中に他を包み込むことでもない。却つて従来よりは一層深い大きな根柢を見出すことによつて、両者共に新しい光に照らされることである」。

ここに見いだされるのは、偏狭な自文化中心主義ではなく、むしろ多文化主義的な発想であると言つてよいであろう。それぞれの文化にそれぞれの可能性を認める発想がここにはある。そのような観点から、西洋文化をそのまま普遍とする立場に対する批判が語られている。しかしその批判が自文化の優位性を一方的に宣揚しようという立場から語られているのでないことも、この文章から明瞭に見てとることができる。ここではそのような見方もまたはつきりと相対化されている。

注意する必要があると思われるのは、そのように西洋の文化をも、また自らの文化をも相対化しながら、西田がいわゆる相対主義の立場に陥つていないという点である。相対主義は、それぞれの文化の枠組みの独自性を強調するために、異なつた文化間での相互理解の可能性に対してしばしばきわめて消極的な態度をとるが、西田は決してそのような意味での相対主義に陥つてはいない。むしろそれぞれの文化が互いに創造的な影響を与えあう可能性を見ている。

一般と特殊という言い方をすれば、西田は「単なる特殊性」の立場にとどまることを否定し、「世界的な文化」の創出を主張したが、しかしただ抽象的に普遍的文化の形成について語つたわけではない。論文「形而上学的立場から見た東西古代の文化形態」において西田は、「歴史的現実の世界の自覚的内容といふべき文化は、固より単に一となるものではない。特殊性を失ふといふことは文化といふものがなくなるといふことである」というように記している。

ここから見てとれるように、西田は「世界的な文化」の創出を特殊性の喪失としてではなく、むしろ「個性」を基盤にした文化の

自己形成として理解している。その根底には、文化はそれぞれの歴史のなかではじめて形成されるという西田の基本的な理解があった。三枝博音さいぐひろとが編集した『日本哲学全書』のために執筆した推薦の辞のなかで西田は、「歴史的地盤なくして文化の発展といふものはない。文化は単なる模倣ではなくして、歴史的地盤から生れるものでなければならぬ」というように記している。過去に閉じこもることが精神を「死物」たらしめるのと同様に、基盤を欠いた単なる模倣もまた発展の力をもたないというのが西田の考えであった。

以上で見たように、西田が日本の文化との関わりにおいてとくに強調したのは、「世界がレアルになつた」状況のなかで、いま求められるのは自らの特殊性のなかに閉じこもることではなく、むしろ世界に向かって自己を開き、世界の文化の発展に寄与するということであった。それは、それぞれの文化にそれぞれの可能性を認めるということでもある。そこにさまざまな文化が
出会う開かれた場が作りだされる。そこでそれぞれの文化が「個性」を基盤にして、互いに影響を与えあい、豊かな文化を築きあげることこそ、西田が「世界的な文化を造り出す」という言葉で表現しようとしたことであつたと言えるであろう。

(藤田正勝『日本文化をよむ——5つのキーワード』より)

問一 本文中の空欄(ア)と(イ)に入る語の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

い。解答番号は

1

- | | | | |
|---|---------------|---|---------------|
| A | (ア)一般 — (イ)特殊 | B | (ア)特殊 — (イ)一般 |
| C | (ア)抽象 — (イ)具体 | D | (ア)具体 — (イ)抽象 |
| E | (ア)絶対 — (イ)相対 | F | (ア)相対 — (イ)絶対 |

問二 傍線部1「世界的な文化」とあるが、本文によれば、西田の考える「世界的な文化」とはどのようなものか。その説明として

最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

2

- A 日本人にだけ通用する特殊なものではなく、世界中の人々の要求に応えられるような創造的な文化。
- B 他の精神や文化から影響を受けつつ、それらに対しても影響を与え、相互の発展に寄与できるような文化。
- C 独自性を誇るだけの保守的なものではなく、異文化圏の人々にとっても目標となるような先進的な文化。
- D 自国内だけで完結するのではなく、世界中の地域に広く伝播して評価されるような普遍的価値を持つ文化。

問三 傍線部2「そのような仕方では語るのでなければ、それについて語る意味がない」とあるが、それはなぜか。その理由の説明

として最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

3

A 「日本精神」の唯一性や特殊性を強調するだけで、異文化との相互影響の可能性を尊重しないならば、「真の文化」を生み出すことはできないから。

B 「日本精神」について異文化圏の人々にも理解できる仕方では発信する努力をしないならば、日本文化を「世界的文化」にすることはできないから。

C 日本だけでなく世界にも通用する文化とは何かということが考えられなければ、「世界歴史」の時代に役立つような文化は生まれないから。

D 理論化を通じて理性的・学問的に扱われないならば、高度な文化が創造され維持されることはできず、世界的に享受されることもないから。

問四 傍線部3「日本文化の特殊性や優秀性を一方的に主張することとは対極にある態度」とあるが、ここで言う「対極にある態

度」とはどのような態度か。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号

は 4

- A 異文化を眺めるように客観的に自文化を眺め理論化することにより、自文化の理解や批判に努めようとする態度。
- B 自文化の優位性を一方的に宣告するのではなく、異文化との対話を通じて真の優位性を見きわめようとする態度。
- C 歴史的産物である時間的な自文化理解を捨て、異文化との比較に基づく空間的な自文化理解を得ようとする態度。
- D 異文化と積極的に交流して競い合い、切磋琢磨と自己批評を通じて真の特殊性や優秀性を獲得しようとする態度。

問五 傍線部4「世界的文化の創造ということも、いま述べた課題と密接に結びついたものとして理解されていた」とあるが、こ

こで言う「課題」に含まれていないものはどれか。次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

5

- A 異文化との対決
- B 自文化への反省
- C 自文化の普遍化
- D 自文化の理論化

問六 傍線部5「一般の中の特殊」とあるが、ここで言う「一般」とは何を指すか。それを端的に表す本文中の言葉を次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 6

- A 西洋文化
- B 東洋文化
- C 人類文化
- D 世界的文化

問七 傍線部6「西洋の文化をも、また自らの文化をも相対化しながら、西田がいわゆる相対主義の立場に陥っているのではない」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 7

- A 西田は、西洋文化も日本文化も同じ文化として等しく尊重するが、だからといって、文化の優劣は決められないと考えているわけではない、ということ。
- B 西田は、異文化の視点から自文化を顧みることが必要だと考えるが、だからといって、異文化の絶対的優位を認めているわけではない、ということ。
- C 西田は、特定の文化がそのまま一般的になるとは考えないが、だからといって、秀でた特殊性がなくてもよいと主張しているわけではない、ということ。
- D 西田は、文化の優劣を決めるようなことはしないが、だからといって、異文化との相互理解に無関心な態度を容認しているわけではない、ということ。

問八 傍線部7「単に一となる」とあるが、それは具体的にはどのようなことか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 8

- A 日本文化の唯一性が宣揚されること。
- B 普遍的な文化に統合されること。
- C 世界的な文化が創出されること。
- D 自文化中心主義が浸透すること。

問九 傍線部8「それぞれの文化が「個性」を基盤にして、互いに影響を与えあい、豊かな文化を築きあげる」とあるが、西田がそのようなことを求めたのはなぜか。その理由を本文に即して説明したものととして最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 9

- A 「世界的な文化」が現れる時代の中で、日本文化が特殊性を失って埋没するようなことがあってはならないから。
- B 各国が近代化を遂げるとともに世界が狭くなり、文明同士の衝突が危惧されるような時代になったから。
- C 多くの国が歴史を共有するようになり、国家が孤立して存在することができないような時代になったから。
- D 西洋以外の地域の優れた文化が尊重されるようになり、協調的な発展の可能性が開かれつつあるから。

問一〇 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

10

A 世界がレアルになった状況下では、日本文化の特殊性をかたくなに守るのではなく、国際情勢に柔軟に対応できるように文化的特性を修正していく必要がある。

B 学問的方法は自文化を客観視するための手立てであり、この方法を通じて自文化と異文化の共通の根を見出すことが、世界的文化の創出につながる。

C 日本文化の特殊性が世界に認められ、高く評価されるためには、日本文化に客観的な基礎を与え、これを学問的に把握できるように努めなければならない。

D 日本的な精神を過去の遺物のなかに見出すことも、また反対に日本的な精神の歴史的基盤を見失うことも、ともに模倣しできない精神を生むことになる。

〔IV〕

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

一、能の本を書く事、この道の命なり。極めたる才学さいがくの力なけれども、ただ、工たくみによりて、よき能にはなるものなり。

大かたの風体ふうてい、序破急の段に見えたり。ことさら、脇わきの申楽まゐり、本説正ほんせつしくて、開口かいこよりその謂いはれとやがて人の知ることくならぬずる来歴らいれきを書くべし。さのみに細かなる風体を尽くさずとも、大かたのかり直すに下りたらんが、指寄さしより花々とあるやうに、脇わきの申楽まゐりをば書くべし。また、番数ばんかずに至りぬれば、いかにもいかにも、言葉・風体を尽くして、細かに書くべし。

仮令けいりやう、名所・旧跡の題目ならば、その所によりたらんずる詩歌の、言葉の耳近みみちかからんを、能の詰つめ所に寄すべし。為手しての言葉にも風情ふぜいにもかからざらん所には、肝要の言葉をば載のすべからず。何としても、見物衆けんぶつしゆは、見る所も聞く所も、上手じやうずをならでは心こゝろにかけず。さるほどに、棟梁とうりやうの面白き言葉・振り、目にさへぎり、心に浮かめば、見聞けんわんく人、すなはち感を催もよほすなり。これ、第一、能を作る手立てだてなり。

ただ、優しくて、理ことわりのすなはちに聞こゆるやうならんずる詩歌の言葉を取るべし。優4しき言葉を振りに合はすれば、不思議に、おのづから人体も **X** の風情5になるものなり。硬5りたる言葉は、振りに応ぜず。しかあれども、硬5き言葉の耳遠みみせほきが、またよき所あるべし。それは、本木もとぎの人体によりて似合ふべし。漢家かんか・本朝ほんちやうの来歴らいれきに従したがつて心得こころえ分わくべし。ただ、卑ひしく俗なる言葉、風体悪わるき能になるものなり。

しかれば、よき能と申すは、本説正6しく、めづらしき風体にて、詰め所ありて、かかり **X** ならんを、第一とすべし。風体はめづらしからねども、わづらはしくもなく、直ただに下りたるが、面白き所あらんを、第二とすべし。これはおほよその定めなり。ただ、能は、一風情、上手の手にかかり、便たよりだにあらば、面白かるべし。番数ばんかずを尽くし、日を重ぬれば、たとひ悪わるき能も、めづらしくし替へし替へ色いろどれば、面白く見ゆべし。されば、能は、ただ、時分じぶん・入れ場いればなり。悪わるき能とて捨すつべからず。7
為手の心遣こゝろづかひなるべし。

〔『風姿花伝』より〕

[註]

- 能の本……能の台本。ここでは役者が自ら台本を書くことの功用が説かれている。
- 工み……工夫、技術。
- 風体……役柄、曲柄、芸風、所作などのこと。
- 序破急の段……能の導入・展開・結末という構成について論じた箇所。
- 脇の申樂……最初に上演される能のこと。脇能とも言う。
- 本説……典拠となる説話。出典。
- かかり……言葉や表現の調子。
- 指寄り……冒頭部、最初。
- 番数に至る……演目が二番目の能、三番目の能と進むこと。
- 仮令……例えば。
- 為手……能の主役。またはそれを演じる役者。
- 風情……所作、しぐさ。
- 棟梁……一座を統率する看板役者。
- 人体……曲中の人物。またはそれを演じる役者の姿。
- 本木……中心となる素材や人物。

問一 傍線部1「その謂れとやがて人の知ることくならんずる来歴を書くべし」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選

び、その記号をマークしなさい。解答番号は 11

- A 「なるほど」と観客が物語の由緒を次第に理解できるような筋書きを書くべきである。
- B 「ああ、その話か」とすぐに観客が分かるような、由緒のあきらかな事柄を書くべきである。
- C 「そういう話か」とすぐに観客が分かってしまわないような台本を書くべきである。
- D 「そうだったのか」と観客が徐々に理解できるように主人公の経歴を書くべきである。

問二 傍線部2「詰め所」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

12

- A 音曲
- B 山場
- C 冒頭
- D 中入

問三 傍線部3「これ、第一、能を作る手立なり。」とあるが、「これ」の指す内容として最も適切なものを次の中から一つ選び、

その記号をマークしなさい。解答番号は 13

- A 観客の心に訴えかけるような、有名な場所を題材にした作品を作ること。
- B 観客と役者の心が一つになるような、一体感の感じられる作品を作ること。
- C 中心となる役者が自由にのびのびと演技ができるような作品を作ること。
- D 中心となる役者の演技に観客が引き込まれるような作品を作ること。

問四 傍線部4「優しき言葉」と傍線部5「硬りたる言葉」の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマーク

しなさい。解答番号は

14

- A 「優しき言葉」とは平明な言葉であり、「硬りたる言葉」とは難解な言葉である。
B 「優しき言葉」とは優美な言葉であり、「硬りたる言葉」とは堅苦しい言葉である。
C 「優しき言葉」とは耳に心地よい言葉であり、「硬りたる言葉」とは聞き取りにくい言葉である。
D 「優しき言葉」とは耳になじみのある言葉であり、「硬りたる言葉」とは耳慣れない言葉である。

問五 本文中の空欄

X

には、能における美意識を表す言葉が入る。その言葉について、筆者は次のようにも述べている。本文と次の文章の空欄

X

に共通して入る言葉を漢字二字で書きなさい。解答番号は

109

強き・弱き事、多く、人、紛らかすものなり。能の品のなきをば強きと心得、弱きをば
しき事なり。何と見るも見弱りのせぬ為手あるべし。これ、強きなり。何と見るも花やかなる為手、これ
されば、この文字に当たる道理をし極めたらんは、音曲・はたらき一心になり、強き・
も、おのづから極めたる為手なるべし。

X

なると批判する事、をか

X

なり。

X

の境、いづれもいづれ

問六 傍線部6「よき能」の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

15

- A 役者が数多く上演し修練を重ねることで、趣が引き出されるもの。
- B よく知られた題材ではなくても、煩雑でなく分かりやすいもの。
- C 典拠が明確で演出の目新しいもの、または演技や内容が素直で面白いもの。
- D 拙い台本であっても新しさを追わず、時期や演目の配置を考慮したもの。

問七 傍線部7「為手の心遣ひなるべし。」とあるが、ここで言う「心遣ひ」に含まれないものはどれか。次の中から一つ選び、そ

の記号をマークしなさい。解答番号は

16

- A 典拠の分かりやすさを心がけること。
- B 演じる時機や順番に配慮すること。
- C 所作に工夫を加えること。
- D 演出の目新しさを保つこと。

問八 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

17

- A 初番の能の導入部では委曲を尽くさずに華やかな趣を心がけ、結末に向けて言葉や所作を詳細に作りこむべきである。
- B 観客は上手な役者にだけ注目するので、名所や旧跡にちなむ重要な詩歌の言葉は棟梁たる為手に割振るべきである。
- C たとえ難しい言葉遣いのせりふであつても役柄によっては似つかわしいので、その作品の典拠は考慮しなくてよい。
- D 能にとつては平明な筋書きが大切であるので、内容を分かりやすくするために演出を工夫することが重要である。

問九 『風姿花伝』について解説した次の文章の空欄

イ

ハ

に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものをA

～Eの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

18

『風姿花伝』は 時代に書かれた能の理論書である。著者の も高度な美学論・演劇論・芸術論を広範に展開した。それにより、猿楽と呼ばれていた芸能が深化し、舞台芸術としての能が体系化された。また、能の発達とともに、猿楽の一要素が として独立し、能の幕間に演じられるという様式が確立した。

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|-----|---|----|
| A | イ | 鎌倉 | ロ | 世阿弥 | ハ | 狂言 |
| B | イ | 鎌倉 | ロ | 観阿弥 | ハ | 田楽 |
| C | イ | 室町 | ロ | 世阿弥 | ハ | 狂言 |
| D | イ | 室町 | ロ | 観阿弥 | ハ | 田楽 |
| E | イ | 室町 | ロ | 観阿弥 | ハ | 狂言 |